

週間聖書勉強の学び

<詩編について>

林明基牧師

「詩編」は、神殿礼拝時に歌われた讚美の詩集です。それぞれの詩には、曲もついていました。その名残が「セラ」、「ミクナム」、「はるかな沈黙の場」に合わせて(詩編 56 編)などという用語です。また、歌うときに楽器も用いられていました。詩編の多くは、ダビデによる詩(73 編)です。その他にも、コラの子(11 編)、アサフ(12 編)、ソロモン(2 編)などの詩もあります。年代も、モーセ(詩編 90 編)の時代からバビロン捕囚の時代(詩編 137 編)までの約 1000 年に及びます。詩編は編集過程において 1 編から 41 編、42 編から 72 編、73 編から 89 編、90 編から 106 編、そして、107 編から 150 編までの 5 つに分けられます。5 つに分けられた理由は明確ではありませんが、モーセ五書に合わせていると言われています。また、それぞれ頌栄の言葉で締めくくられ、詩編 150 編は全体の締めくくりとなっています。

詩編は 150 編すべてが独立しているのです、一つのメッセージにまとめることはできません。ただ、一つ共通していることは、神様との深い交わりの中で歌われた信仰の詩であることです。初代教会においても、詩編は讚美歌の歌詞となっており、祈りとしても用いられました。イエス・キリストも十字架の上で「わたしの神よ、わたしの神よ／なぜわたしをお見捨てになるのか。」(22:2)と、詩編をもって祈られました。まさに、詩編は私たちの讚美であり、祈りの手本でもあります。

詩編は、私たちに讚美と祈る心と姿勢を教えているのです。



★コロナ禍の中、仕事も休みにになり、毎日をどのように過ごそうかと思いましたが、娘の婚約者と共に家族で食事をする機会が多く与えられたことに感謝しています。

再び、コロナの感染者数が増えていく中で、色々な心配事がありますが、主に委ね、主を信頼し、主に従うことが出来るようになりたいと思います。

6 月から礼拝が再開して、信徒の皆様にご会えてうれしく思いました。私達信徒は、神様の大切な家族なんだと改めて感謝しました。一人も欠けることがなく、無事にコロナ禍を乗り越えて行けるように主に祈ります。

「神はわたしの岩、わたしの救い、砦の塔。わたしは動揺しない。わたしの救いと栄えは神にかかっている。カと頼み、避けどころとする岩は神のもとにある。民よ、どのような時にも神に信頼し御前心を注ぎませ。神はわたしたちの避けどころ」

詩編 62:7-9 アーメン (田中博美)

★当たり前のように過ごしてきた毎日が、一瞬にして変わり、自粛の毎日になっています。女性会のほとんどの行事もお休みにになり、4 月から今に至っては、何もできないという悲しい気持ちと何かをしないといけないという焦る気持ちで過ごしていました。教会では現在、手を握って話をしたり、食事を共にしたり、聖書勉強会などの「交わり」ができず、とても寂しく思います。

ただ、女性会ではありませんが、こういう状況だからできる「交わり」の体験もありました。今は韓国に帰国した姉妹や東京にいる姉妹も含めたオンラインでの祈り会。共に祈り、大きな声で讚美を捧げることができ、とても感激しました。遠く離れたので会うのは難しいとばかりに思っていたのですが、実は簡単につながったのでびっくりしました。

この教育部だよりもその一つですが、女性会でも神様からの知恵に頼って、「できない」中でも「何が出来る」を考えたいと思います。こういう時にできる新しい交流を、交わりを模索していきたいです。女性会の年配の方をはじめ、会員の皆様の健康と毎日の生活が主によって守られますようお祈りいたします。(金仁姫)

★主の御名を賛美します。

週間聖書勉強は ゆっくり聖書が読める静かな時間であり祈りの時間です。とてもだいじなひとときです。突然の出来事 新型コロナウイルスによって生活に変化があり 戸惑い怖さもあり 色々な困難もありますが、もう一度新たに主に委ね 日々悔い改め 主から御霊の実をいただいて 兄弟姉妹を 家族を 周りの人々を愛します。(趙和子)

★主の御名を賛美します。

女性会の皆様のご健康をお祈りいたします。コロナにより新しい生活の変化に戸惑いもあると思います。新型コロナウイルスが途上国で拡大しています。神様から必要な医療物資、食料がいきわたり、一日も早く終息するように。

医療従事者の方々の健康をお守りください。

九州豪雨災害により被災された方々に 神様の平安と慰めがありますように。(匿名)

★最近、『御霊に属する人 肉に属する人』(いのちのことば社)という本を読みました。その本から…

生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れることができない。墮落して霊の命を失ったままで、イエス・キリストによってそれを回復されていない状態。当然、神を知らない。

「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです」I コリント 2:14(新改訳)

肉に属する人は、霊の命は持っている。キリストによって回復され、救われている。しかし「キリストにある幼子(パウロの言葉)」である。福音に生きて成長できていない。霊は与えられているが、この世の考え方や価値観に影響されて生活してしまっている。実生活の中で成長できず、霊的に幼い状態にとどまっている。「あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるではありませんか」I コリント 3:3(新改訳)

御霊に属する人は、霊的に成熟している人。霊的に大人になっていく=キリストの体である教会の各部分が愛のうちにしっかりと組み合わされ結びあわされていく。他者のことを愛をもって助け、励まし、キリストをかしらとして一つになっていく。たんに御霊を持っているだけでなく、御霊に生きている。「平和をつくる者は幸いです。その人は神の子どもと呼ばれるからです」マタイ 5:9(新改訳)

以上、抜粋・要約しました。聖書を日々読んでいて、考えさせられること、よくわからないところ、いろいろな発見があります。自身も肉に属していると痛感し、少しでも御霊に属する者に、神様により頼み、祈り、行動していきたいと思いました。(匿名)

★「死の陰の谷を行くときもわたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる」詩編 23:4

♪君は明けの星、谷間の百合～という賛美歌があります(88番)。ただイエス様のうるわしさを歌ったものと思っていました。しかし、榎本保郎先生の本によると、「谷間」とは、「死の陰の谷」なのだとか。そこに咲く花は、どんなにか私達を慰め力づけてくれることでしょう。「明けの星」とは、長い長い夜の暗闇で待ちわびた夜明けの知らせなのだ。このコロナ禍にも、必ず夜明けが来ることを信じ、ともし火をととのえて待ちたいと思います。／…と、いいカッコを書きましたが、一番身近な人に優しくできないのが目下の私の反省です。まだまだ「肉に属する人」ですね。△反省、反省……(康玲子)

初めての「教育部だより」、みなさん、いかがでしたか? 新型コロナウイルスのため、3月以降聖書勉強会ができていませんでしたが、この状態は思っていたよりも長く続きそうです。そこで、聖書勉強会の代わりに、この「たより」を発行することにしました。

次は、あなたが原稿を書く番です! 週間聖書勉強で思ったこと、コロナに思うこと、祈ってほしいこと、その他なんでも(^^)。原稿は、教育部・康玲子まで。週報ボックスに入れる/ラインやメール(crytalsound106@gmail.com) / FAXで送る、いずれの方法でもOKです。どうぞよろしくお祈りいたします。(名前とともに、匿名やペンネーム希望の時は書いておいてください。)

(教育部・康玲子)